



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2011年2月-3月号

Vol.18

支援者の皆様へ

ふたたびアフリカへ、、、



上：デブラブラハンは、馬車が走る小さな町。人口約8万人

支援者の皆様、こんにちは。2年前、民間援助団体を通し、私は人生で初めてアフリカの地を踏みました。東アフリカの国、エチオピアにおいて、現地の教会、NGOが「イエスを受肉」して生きることによって、「人と社会のトータルな変革」に近づいている姿を観察させていただき、学ぶことが訪問の目的でした。そこで私が学んだことは、トータルな変革（神の国の到来とも言い換えられる）をもたらしているNGO、教会などの働きに共通しているものは、特定のプログラムや仕組み、資源や人の動き方などでは

なく、「変革をもたらす人」の存在である、ということでした。

では、変革をもたらす人とはどのような人のことか？これが2004年の日本での聞き屋ボランティアの実践、2008年のインドでのインターン期間、2009年のエチオピアでの学びと続いた、足かけ6年間の学びの「最後の問い」とも呼ぶべきものでした。この答えを、2年経った今、もう一度ここに書き記したいと思います。

【変革をもたらす人に共通する6つの資質】

- 1 地域のことを良く知っている。
- 2 「現場」に身を置く
- 3 「貧しい人の中の最も貧しい人 (Poorest of the Poor) に仕える」という指針を持つ
- 4 大きなことではなく、小さな事を続けている

5 問題を概念として捉えるのではなく、具体的個人に関わる

(貧困を例に挙げると、「貧困」という大きな問題の前に立ちすくむのではなく、問題の本質は、そこに「困っている人がいるだけ」と考え、具体的行動を起こす。日本では「孤独」が大きな問題になる。)

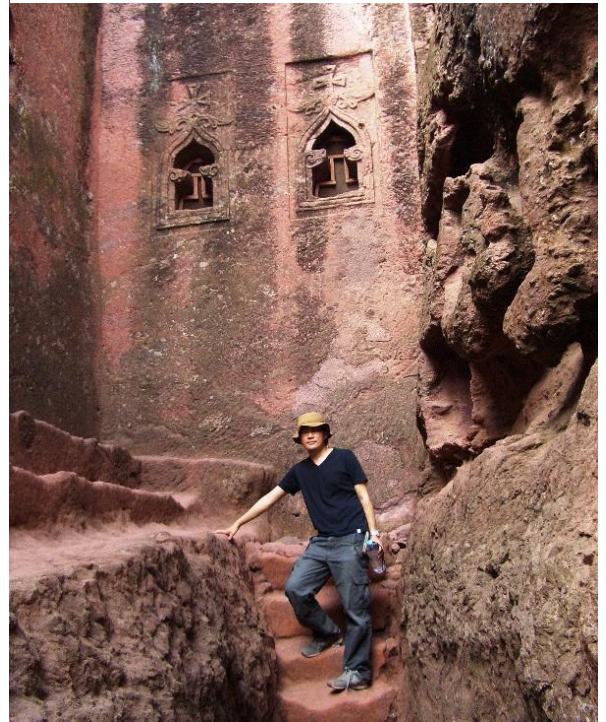
6 あるから与えるのではなく、なくても与える。

(与えるということは与える物の量の問題ではない。「与える」という生き方の問題だという事)

2009年3月にエチオピアから帰ってきてから2年が経過しました。その間、お世話になった団体を退職し、新しい運動体「声なき者の友の輪(F V I)」の立ち上げに関わりました、また、日本各地でセミナーを開催し、教会や個人が人と社会のトータルな変革を目指して、「イエスを受肉する」生き方をしていくことのお手伝いをさせていただきました。同時に、学んだ原則を自らの足元で活動に生かそうと努めました。「最後の問い」の答えを、日本の宣教の現場に適用したのです。

世界の方々から学んだ大切な原則や真理、スピリットを、私は日本において活かすことに心を砕いてきた結果、私は多くの日本人の方の生き方を通して、新たに大切な原則を学んできました(その一部をこの号の最後の項に書き記しました)。それらの「新たな学び」を携え、多くの方々の祈りに支えられて、今回再びエチオピアの地を踏む、ということに何か神様の深い導きと意図があるように、私は感じています。先回の訪問の目的はトータルな変革モデルのインターンとして、現地の草の根の活動家から学ばせていただくことでしたが、今回の目的はそのような活動家とのパートナーシップを構築することです。現在F V Iのパートナー団体はインドに2団体あります(インドオリッサ州、貧困地域の開発プロジェクト、およびダリットの尊厳回復プロジェクト)。同時に、ガーナの活動家(クリス・アンパブ氏)とその働きを支援する可能性を模索しています。今回の訪問で与えられる出会いから、東アフリカにもパートナーシップを結んで学び合い、活動を共にしていく仲間が与えられることが私たちの願いです。皆様にもお祈りいただけると幸いです。

下：世界遺産の岩窟教会群（ラリベラ）



活 動 報 告

奉仕と活動（2010年12月～2011年1月）

皆様のお祈りによって支えられ、様々な場所で奉仕させていただき、啓発活動を行わせていただきました。関係する教会、団体の方々に感謝申し上げます。奉仕地：なる堵（狭山市）、コドモの園幼稚園（世田谷区）、I C B C（愛知県）、草加神召教会（草加市）、清瀬グレースチャペル（清瀬市）など、累計出席者約520名。

また、1月31日、2月1日にはF V I役員会が万座温泉ホテルにて開催されました。F V Iの働きが、神が世界においてなされたいことの小さな一部であり続けることができるよう、カタリストやボランティア、役員、正会員の一人ひとりが神様の声を聞きながら働きを推進していけるようお祈りくださると幸いです。

チーム江古田の実践を通して 2010 年に学んだ「大切な原則」



Vol.16 のレターで紹介させていただいた、「チーム江古田」の取り組みは、2009 年 12 月に始まりました。情熱を共有する仲間と共に、「地域においてイエスの愛が見える化する」ことにチャレンジした 12 カ月間の体験は、私にとって大きな喜びであり、様々なことを考えさせられ、教えられた期間でした。ここに、主に「チーム江古田」の仲間たちを通して神から教えられた大切な原則のいくつかを皆様にも紹介したいと思います。これらの原則は、私たちが取り組みの中から身体で学んできた貴重なレッスンの一部です。皆様が置かれている場所でも何かヒントになるアイデアが含まれていると信じています。少々長い文章ですが、目を通していただけたら嬉しく思います。どうか江古田での私たちの学びが、日本全国の同じような「草の根の活動家」たちを励ましますように。

■小さく始める

「チーム江古田」のはじまりは、とてもシンプルでささやかなものでした。2009 年 12 月の寒い日に、教会の友人である松本玄太氏と私が、江古田駅北口に 30 分間立ちました。スケッチブックで作った即席の「聞き屋」の看板を持って、、、立ち止る人は誰もいませんでした。私たちはその場で感謝の祈りをささげ、「またやろう」と言って別れました。これが始まりでした。現在チームメンバーは常時 5~6 名になるまで成長し、他の教会のメンバーも活動に加わってくれています。江古田駅だけでなく、吉祥寺でも定期的に聞き屋をしています。活動を通して私たちが初めて出会う事が出来た人の数はおおよそ 100 名を超えました。10 名以上が私たちと継続的な関わりを持っています。2 名の方が私たちの活動の源であるイエス様を信じるようになりました。チームで行うゴミ拾いによって、これまで江古田駅周辺で家庭用ポリ袋 80 袋以上分のゴミを拾い、神が愛しておられる街を綺麗にすることに貢献してきました。

私たちが蒔く「種」は多くの場合、非常に小さなものです。そしてむしろ、「小さくあるべき」であるように私は感じています。イエス様は神の国のことを話された時、「それはからし種のようなものである」

と語られました。からし種は 1000 粒で 1g という小ささですが、そこに神の命があるため、成長すると高さ 3 メートル以上の木にまで生長します。また私たちの存在は「パン種（イースト菌）」のようでもある、とも言われました。イースト菌は重量にするとほとんどゼロに等しい比率ですが、その存在によって全体の在り方を変質させるのです。

チーム江古田の働きはまだまだ発展途上にあります。取り組みは試行錯誤の連続です。感謝の数と問題の数が半々ぐらい、というのが実情です。しかしながら、2009 年 12 月に江古田駅前に立ったあの日から見ると、そのインパクトは「奇跡」と呼んでもよいほどのものです。その「奇跡」のすべては神がしてくださいました。私たちがしたことは、「地域の必要に応答するための具体的行動」という小さな種を蒔いたことだけです。私たちはあまりにも多くの場合、「奇跡」の部分まで自分でしようとして、結局何もしないことがあるように思えてなりません。「小さく始める」という原則を、私は 12 カ月間の取り組みで神様から再確認させられました。

■基礎調査としての「聞き屋」

愛知での聞き屋から 5 年が経った 2009 年 12 月、私は江古田で再び聞き屋を始めました。その動機は、2004 年に「とにかく人々の心のゴミを拾いたい」と思っていた愛知のときのそれとは少し違っていました。今でも私は「街の人々の心のゴミを拾いたい」と願っています。しかし、今回、私はもうひとつの動機を持っていました。それは「基礎調査」でした。私たちの暮らす現代社会は「情報過多」と言われます。しかし、本当にそうでしょうか？ 私たちの足元の「街の必要」に関して言うと、実は情報の絶対量は減っている、というのが私の意見です。個人情報保護法によって、公的機関も地域の実態を把握、情報共有することが難しくなっており、地域社会（会社共同体を含む地域共同体）という文脈の事実上の消滅によって、「隣の人の名前も顔も知らない」という「無関心な社会」が生み出されてきました。インターネットの普及によって情報へのアクセスが容易になった半面、その「情報」の多くは数字の羅列や起こった事件に対する分析に過ぎず、社会の実態が実は「ブラックボックス」になっているのではないかと、という問題意識が私にはありました。誰がどこで、どのような問題を抱えているかを体感的に分かっている人が皆無、もしくは非常に少ない、ということです。2004 年～2006 年に豊橋で聞き屋をした時、私は「如何に自分が豊橋を知らなかったか」を知りました。街で聞き屋をすると、その街に住む不特定多数の人と会話をするようになります。住人の「ナマ」の声を聴くことが出来るのです。「街を知る」ために、聞き屋はきっと良いツールになる、と私は思いました。

事実、江古田の 12 カ月間の取り組みから生まれた新たな取り組み「訪問聞き屋」（デリバリー聞き屋サービス）は、街角ではなく自宅や施設などに「話を聞いてほしい高齢者や孤独な人」がいることに、私たちが人々との会話を通して気付かされたことによって生まれた働きです。

インド、エチオピアで、「社会変革」の要として神に用いられている草の根の活動家たちに共通する資質の第一番目は「地域のことを良く知っている」というものでした。彼らは例外なく「地域のナマの声」を聞き、皮膚感覚で地域の必要を把握している人々でした。私もそのような一人でありたいと願っています。そして社会を癒す地域教会は、本来的にそのような存在であるべきだと信じています。

■セカンドコンタクトの重要性

5 月のミーティングで私たちチームは「セカンドコンタクト」について話し合いました。聞き屋で会った方に、もう一度会う事が出来るよう意識する、ということです。もちろん強引に連絡先を聞いたりはしませんが、可能ならば別な場所で別な機会に会うことができるよう声掛けすることを意識しました。

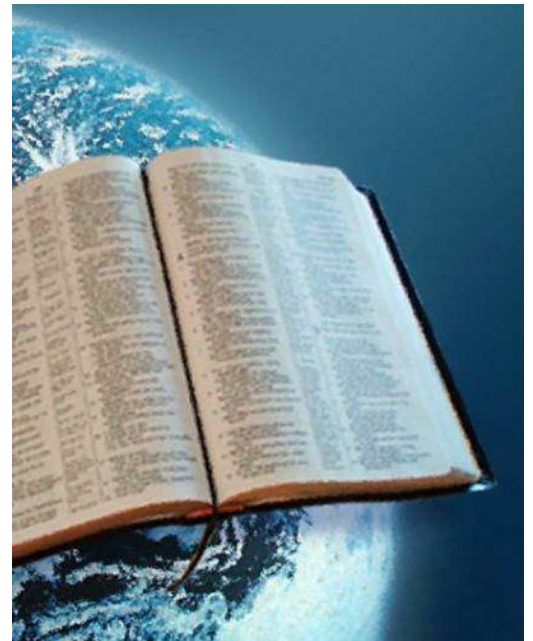
その結果、それまで殆どなかった「継続的なつながり」が 10 名以上の方々と出来てきました。

このことを意識するようになったのには理由があります。自殺率の高さ、家族の崩壊、孤独、ひきこもり、うつ病患者の多さ、シングルペアレント、、、現代日本には様々な問題がありますが、殆ど全ての問題の「根」には「**つながりの欠如**」があるように思います。「つながり」のない社会、これが日本の問題の本質ではないでしょうか。

それに対し、私たちが「イエスの愛で」応答する、とはどのようなことを意味するのでしょうか？それは「**友人になる**」ことではないでしょうか？安直すぎるでしょうか？私はそうは思いません。このシンプルな行為を「**敢えて**」する人、自己犠牲や拒絶もいとわぬ勇気を持つ「**誰か**」が、この社会には必要なのではないのでしょうか？私たちは社会に、「**イエスの心で友人になる人**」として存在したいと願いました。そのようにしてチーム江古田が関わるようになったNさんは、ある宗教団体の青年部長をしています。Nさんは昨年、私たちと一緒にゴミ拾いをしたりして何度か時間を過ごしました。そしてチーム江古田のクリスマス会に参加してくれました。「今年あった最も良いこと」の分かち合いで、Nさんは「チーム江古田の皆さんと出会えてこうして交友関係を持つことができるようになったこと」と答えました。私たちは皆、100人の友になることはできません。でもNさんのような1人の友になることが出来ました。このような事こそ私たちの働きの「**実**」だと私は思っています。神にご栄光がありますように。

■仕えるときに人は成長する（成長すると仕えられるようになる、のではない。）

私はクリスチャンになって長い間、「聖書を読み、礼拝に出席し、祈り、教会で交わると、クリスチャンとして成長する。そうすると人々に仕えられるようになる。」と教えられてきました。確かにそのような側面もあるかもしれませんが、しかし、チーム江古田の12カ月の取り組みを通し、人は成長したら仕えられるようになるのではなく、仕えるとき、成長するのではないかと考えるようになりました。順番が逆なのではないか、と。チーム江古田のメンバーたちはこれに同意してくれると思います。彼らはリーダーである私以上に街に出て行きました。知らない人と会いました。問題を抱える人と時間を過ごしました。現代社会の「課題」と、対峙しました。信じた人を、今度はその人が「イエスのように仕える」ことができるよう導く必要が生じました。これらすべての瞬間に、チーム江古田のメンバーは祈り、神に頼り、そして聖書を調べました。結果として、彼らは成長しました。（本来私が言うのは僭越ですが、彼らを見上げるようにしてそう思います。）



私のメンターであるボブ・モフィット氏は、「**聖書は傷つき崩壊した私たち、およびこの世界を癒すために神が書かれたマニュアルである。**」と言っています。聖書は江古田を癒すマニュアルなのです。だとしたら、江古田を癒すために現場にいて聖書を調べる人は、聖書を「**使って**」いることにならないでしょうか？この順番が大切だと思います。現場には必要があります。必要と対峙すると、神に祈り、聖書を読みます。神に祈り聖書を読んで完全にされて、やっと現場に行けるのではないのです。不完全なまま出て行きましょう。人と関わりましょう。そうすると神に頼ります。そして「**結果として**」私たちは仕えることにおいて成長しているのではないのでしょうか。

祈りの課題

◇F V I カタリスト 3 名のチームワークが強固なものになっていくように。

◇アフリカ渡航のため。旅の安全と、良き出会いがあるように。

今後の予定

月日	内容	場所
1月31日～2月1日	F V I 役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
2月6日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
2月9～11日	JCMN サミット参加	愛知県豊橋市
2月20日	礼拝、青年会での証	桜ヶ丘キリスト教会
2月27日～3月3日	DNAフォーラムに参加	南アフリカ
3月4日～16日	パートナー団体の模索	エチオピア
4月30日～5月1日	ビジョン・カンファレンス	愛知県蒲郡市
6月第3週	DNAリーダー会議	アリゾナ（アメリカ）
8月5～8日	聖教団中高生キャンプ	長野県
8月29日	F V I 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
随時継続的に	国内啓発活動およびフォローアップ、コーチング	国内各地

連絡先

〒443-0013 愛知県蒲郡市大塚町伊賀久保 100-2 国際クリスチャンバプテスト教会内 「陣内俊を支える会」

Email shun@karashi.net ブログ URL : <http://ameblo.jp/shunjinnai-kingdomcome/>

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援にご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-9-1889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

*ブログから Prayer Letter をダウンロードくださった方で、振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。振込用紙、ご案内を送らせていただきます。

*2カ月に一度、プレイヤーレターに2枚（2か月分）お送りさせていただく振替口座の振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封させていただきますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。

*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。